



第9号

2012(平成24)年
11月15日発行

発行所

京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 三嶋 統 吾

「朋友」とは、同信のなかま。
2008(平成20)年4月の仏教
壮年会連盟発足にあたり、
仏教会員が力を合わせ、とも
に歩を進めていこうという
願いから名づけられました。

「聞法の拠点づくり…寺院仏壮を」

浄土真宗本願寺派 仏教壮年会連盟活動推進講師

藤井 邦 磨



ご承知のように二〇〇八年度より従来の「全国仏教壮年会議」から「浄土真宗本願寺派 仏教壮年会連盟」と組織が改変されました。それは会員一人ひとりが自主・自営の活動を展開していこうという趣旨です。

当時の評議員会（各教区代表一名で構成）で親鸞聖人七百五十回大遠忌法要までに全寺院数の五十%に寺院仏壮の結成をめざすという目標を設定しました。そこで全国を五つのブロック（連区といえます）に分けて、連盟から理事長（または副理事長）、組織拡充委員及び活動推進講師が連区の中の担当教区に出かけることに

しました。当日は教区内の仏壮会員、未結成寺院の門徒、住職、僧侶の方々がたとひざを交え仏壮活動の重要性、寺院仏壮の結成依頼などのプログラムで「寺院仏壮結成のための研修会」を開催してきました。

私は昨年度は第三連区の和歌山教区、第五連区の沖縄県宗務特別区（沖縄県内の寺院数は十一カ寺です）で上記のような呼称になっています。へ関係者と一緒に寄せていただきました。後日、和歌山教区では早速二カ寺に仏壮が結成されました。また、沖縄県宗務事務所長さんからは熱意のこもった前向きの報告が届けました。

私は折々に教区や組や寺院に寄せていただきます。そこで組長さん、住職さん、総代さんたちと懇談する機会があります。その中で最近、ご法座の回数が減った、日数が短縮された、参拝者が減少した、などの声を聞きます。

仏教壮年会連盟綱領に「自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き」という一段があります。壮年世代は仕事第一で業績に追われ、複雑な人間関係に気を配り、責任ある立場にもなり心身ともに疲れ切つて、「自らの生き方」を静かに顧みる余裕がありません。ましてや「親鸞聖人のみ教えに聞く」という機会は滅多にありません。せめて一年に数回でも本堂に座り、お念仏を称え聞法をしてみませんか？ お寺どころではない、という反論がでてきそうです。しかし、

あえて言えば、だからこそ「み教えを聞く」ことが大切です。これまでと違ったものの見方や、人生の新しいヒントに出会うかもしれません。

「実践運動」の重点プロジェクト

今年度四月からこれまでの宗門の「基幹運動」の名称が「御同朋の社会

をめざす運動（実践運動）」に変わりました。この運動の総合基本計画の〈運動の願い〉の中に「人々の苦悩に向きあい、ぬくもりのある活動を展開することが大切です」と示されています。浄土真宗本願寺派仏教壮年会連盟では今年度から三カ年にわたる重点プロジェクトの「実践目標」を「東日本大震災をはじめとする被災者への支援」と決定しました。具体的には①支援金募集②機関紙を通して被災地の状況・支援情報の提供・呼びかけを実施③ボランティア活動参加の奨励—となっています。



〈本願寺仙台別院内にある災害ボランティアセンターの様子〉

私は九月十三日、十四日、東北教

区の仏教壮年会連盟の研修会に出か

けました。(仏教婦人会連盟と共催)

当日は大震災で寺院が大きな被害に

遭い、ご門徒が広範囲に分散してい

る中からの参加者、東京電力福島原

子力発電所の事故で避難を余儀なく

されているご住職やご門徒(仮設住

宅から)の参加者が約十名ありまし

た。かけがえのない人や生活基盤を

すべて失った人、ふるさとをはなれ不

自由な仮設住宅で暮らす人、親の仕

事や子どもの教育や健康面の関係で

家族が別々に生活している人。苦し

みや悩みが晴れることはありません。

リカをはじめ五カ国からも来てくれ
たそうです。
これらの人はすべてが仏教徒や浄
土真宗の門徒ではありません。それ
は重点プロジェクトのポイントにも
ある「自他ともに心豊かに生きるこ
とのできる社会の実現に貢献する」
という実践の心です。特に現在では
被災者の悲しみや嘆きに寄り添い、
耳を傾けて聴いていくことが活動の
一つの柱となっています。募金は強
制ではありません。支援活動は仏壮
会員が「できるとき」に、「できるこ
と」を、「できるだけ」実践させてい
ただくことです。



「三・一一」支援活動を機縁に寺院仏壮結成」

東京教区 千葉組 西方寺仏教壮年会

松尾俊彦



二〇二(平成二十三)年三月十一日午
後二時四十六分。東北から関東に至る太
平洋沿岸地域を大きな地震が襲いました。
この東日本大震災と呼ばれる震災を
うけ、六月の中ごろにご住職から現地
の視察を打診され、東北教区災害ボラ
ンティアセンターに向きました。いつ
たん地元の千葉県柏市に戻り現状を報
告したところ、ご住職から自坊でボラ
ンティア活動に取り組みたいというご
意向をうかがいました。

現地の様子を垣間見ていた私は、一
も二もなく参加の決意を固めました。
門信徒さんからの義捐金を募り、その
義捐金を活動資金として、年内の活動
目標日数を百日と決めました。

六月二十七日、私を含む西方寺門信
徒による活動が始まりました。七ヶ浜
町の地元ボランティアセンター、続いて
石巻市の稱法寺に赴き、流入物の撤去、
物資の搬出・整理、流された写真の整理、
仮設住宅での傾聴活動を行いました。
発災以来、西方寺門信徒による奉仕活
動は百二十四日にわたりました。

ボランティアでは偶然にも浄土真宗
本願寺派仏教壮年会連盟の正副理事長
とご一緒させていただく機会があり、
そのことがきっかけとなり仏教壮年会
を結成できたことは不思議なご縁であ
ると感じます。

その一方、九月に入ってから、私は

すでに花巻市に立ち上がっていたボラ
ンティアのためのボランティア「とう
わボランティアの家」に赴きました。

施設内の清掃やシーツ等の洗濯、仮設
住宅への物資配送、炊き出し、また宿泊
者の申込み受け付け等の事務などが主な
仕事です。そんな中、傾聴活動を通じて、
避難場所や横に寝ていた人が翌朝凍死
されていたという話をうかがいました。
話を聞いてもらい気持ちに楽になったと
おっしゃっていたのが印象に残ります。

「とうわボランティアの家」で活動
する間、全国から二千数百名の方が同
施設を拠点にボランティア活動に従事
されました。なかには、時間をつくり
また来たいとおっしゃる方もいらっ
しゃいました。

被災地の様子には胸ふさがる思いで
したが、数々のご縁にも恵まれました。
今後も活
動を続け
るなかで、
近い将来、
必ずや元
気に復活
した東北
の姿を目
にするこ
とでしよ
う。



〈西方寺仏教壮年会・会員の皆さん〉

「単位会結成に向けた研修会により二カ寺加入」

和歌山教区仏教壮年会連盟理事長

溝根 央



二〇一二(平成二十四)年二月十二日(日)、本願寺鷺森別院において和歌山教区仏教壮年会連盟が担当となり宇野哲哉先生、藤井邦麿先生を講師として単位会結成に向けた研修会が開催されました。

和歌山教区は、壮年会登録数が第三連区内で最少であり、少しでも仏教壮年活動が活性化することを願い開催しました。現在まで、和歌山教区の仏教壮年會が抱える課題は山積みしており、単に登録数の増加を目的とした研修ではなく、仏教壮年活動の充実をめざす研修会としました。

内容は、宗勢基本調査報告書から、現在の寺院を取り巻く現況、寺院活動のあり方を見直し、今後の教区・組・寺院における伝道教化活動のあり方を、壮年層を対象とした活動を中心に考えていこうというものです。

参加者からは、さまざまな情報を



〈鷺森別院においての研修会の様子〉

共有できるようにすることも活動の充実につながるのではとの意見がありました。この後、五月十八日に、二カ寺が加入されました。

「生かされてつなぐいのち」

（第二連区仏教壮年大会）

仏教壮年会連盟評議員(東海教区)

荒井 信行



七月二十一日(土)お念仏香る三重県の地、桑名市で、第六回第二連区(中部・北陸ブロック)仏教壮年大会が開かれました。ご門主様ご臨席のもと遠近各地より千余人の朋友が一同に会し、一つ心にお念仏をいただいたことでありました。

大会のテーマは「生かされてつなぐいのち」。大会目的は、自らの生き方を今一度見つめ直し、み仏の教えに帰依し、絆を強める取り組みを充実させることです。ご門主様よりお言葉をいただき、私たちは迷いの人生を送り、自らの命を傷つけ生きていること、そしてそのような私たちをこのままでは見捨てておけないという阿弥陀如来のお救いの働きをいただくところに、お念仏の人生の素晴らしさがあることに気づかされ、日々の生活を通じお念仏とともに力強く歩んでいく大切さを教えていただきました。

記念講演は赤松徹眞さん(龍谷大学学長) 講題は、「仏教壮年の現代社会の貢献」。お話のなかで「現代社会の中で、自分の思いや願いをそのまま叶えていくことに多くの人たちの関心があり、思うようにならないことで苦悩し、生かされていくいのちを深く受け止めることができず、迷いのいのちを生きている。しかしながら私たちは煩惱具足の凡夫、



〈桂まん我さんの落語〉

罪惡生死の凡夫を知られることがひとえに阿弥陀さまの智慧により気付かされる世界がある。私自身もかかえる苦悩であるが苦悩を超えて生き抜ける道はすでに私たちには開かれている。浄土真宗のみ教えをとくに聞いて、ともに学んで行く場所に身近な人から誘い朋友の輪を拡げ、仏教壮年會の綱領を実践していくことが私たち壮年の使命、役割である」とお話しいただきました。

記念行事では桂まん我さん大変ご熱演いただきました。お寺参りをする子らに「小さいのにえらいね。若いのにえらいね。」という言葉が耳にするたび「どうして偉いのだろう?」と不思議な思いで聞いていた私もいつしかうなずいていました。

阿弥陀さまからのおほめの言葉だったのです。ナンマンダブツ

平成二十四年度 新規登録単位会

(4月1日～10月17日)

【北海道教区】

釧路組 常龍寺 常龍寺仏教壮年会

氷上東組 明光寺 明光寺仏教壮年会

【東北教区】

秋田組 秋田組仏教壮年会

大田東組 立善寺 立善寺仏教壮年会

【東京教区】

芝組 當光寺 當光寺壮年会

【備後教区】

比婆組 徳了寺 徳了寺仏教壮年会

【安芸教区】

高田北組 西勝寺 西勝寺仏教壮年会

【山口教区】

下松組 正立寺 正立寺仏教壮年会

【岐阜教区】

黒野組 明善寺 明善寺仏教壮年会

【東海教区】

三重組 延長寺 延長寺仏教壮年会

【奈良教区】

葛城北組 円乗寺 円乗寺仏教壮年会

【大分教区】

大海組 佛言寺 佛言寺仏教壮年会

【和歌山教区】

葛上組 光明寺 光明寺仏教壮年会

【兵庫教区】

伊那組 浄願寺 浄願寺仏教壮年会

【熊本教区】

阪神東組 圓融寺 圓融寺仏教壮年会

【宮崎教区】

播磨東組 西教寺 西教寺仏教壮年会

【播磨東組】

宗宣寺 宗宣寺仏教壮年会

正念寺 正念寺仏教壮年会

2012（平成24）年度 仏教壮年会連盟 中央研修会

「御同朋の社会をめざす運動」の理解と、仏教壮年としての意識の高揚と自覚を深め、
仏教壮年会活動のさらなる推進に向けて、ぜひ研修会にご参加ください。

■テーマ 今、仏壮に求められるもの

■日時 2013（平成25）年2月16日（土）12:30～17日（日）12:00まで ※16日（土）11時45分より受付

■会場 【研修会場・宿泊会場】本願寺聞法会館 075-342-1122

■受講対象 各教区2名（沖縄県宗務特別区含む）

※本研修会は、教区幹部を含む仏教壮年会活動推進者の育成を目的とした研修会です。

※60歳以下（うち1名は50歳以下が望ましい。）

※評議員・教区（特区）仏教壮年会連盟理事長・既参加者は除く。

■講師 仏教壮年会連盟活動推進講師

■参加費 10,000円 <内訳：受講料・宿泊代・食事代（夕食・朝食）>

申込・詳細については、各教区（特区）仏教壮年会連盟事務局にお問い合わせください。

仏教壮年会連盟 慶弔申請のご案内

仏教壮年会連盟では、各種「慶・弔事」に際して、ご申請（※）に基づき「表彰・祝辞・弔意状・見舞状」等の交付を行っております。

たとえば、教区（特区）連盟・組連盟・単位仏壮の開設年数に基づく各種表彰・祝辞など。詳細については、仏教壮年会連盟ホームページに慶弔規程が掲載されてありますのでご覧ください。連盟・単位会における大切な節目に際して、どうぞご利用ください。

申請にかかる詳細については、各教区（特区）仏教壮年会連盟事務局までお問い合わせください。

※仏教壮年会連盟ホームページ（単位会向け各種書式）より申請書のダウンロードが可能です。